



使用済みプラスチックはごみじゃない

私たちの行動が地球を救う！

私たちは、ペットボトルやレジ袋などさまざまなプラスチック製品を利用しています。

瀬戸内海の環境保全を考える「『世界の宝石～瀬戸内海』を磨くシンポジウム」が、7月16日に岡山市で開かれました。国際的な課題となっている微細プラスチックごみのマイクロプラスチックによる海洋汚染などをテーマに、海ごみの削減に向け議論がおこなわれました。海を漂うペットボトルやレジ袋が劣化して5ミリ以下に砕けたマイクロプラスチックが、南極海など世界中に広がっており、有害物質を吸着する性質があるため、餌と間違えて食べた魚介類の生態系に影響を与える危険性があるとの指摘があり、友実赤磐市長は、「海ごみの多くは河川から流れ出ている。上流で回収するシステムの導入や市民啓発の取り組みが重要」と発言したと、報道されています。6月、先進7カ国環境相会合でも議題となり、「世界中が関心を持ち始めている。海ごみを減らすため、一人一人が自分のできることをすべきだ」と山本環境相は述べています。先のシンポジウムで「海岸で10のプラスチックごみを拾うことは一万個のマイクロプラスチックを拾うことに匹敵する。清掃活動でマイクロプラスチックを減らす意義を認識してほしい」と、磯辺篤彦九州大大気海洋環境研究センター教授は訴えています。

北極・南極の氷が融けている

北極海の海氷面積は、毎年北海道と同じ面積が減少しています。こうした現象は海面上昇へと繋がる恐れがあります。南極で棚氷から離れた重さ1兆トン、三重県と同じ面積

の氷山ができた報道もありました。

全国各地で集中豪雨による被害が続発しています。こうした現象の原因とされる地球温暖化を食い止めることは、喫緊の課題です。

プラスチックはごみではない！

マイクロプラスチックによる海洋汚染を防止し、プラスチックの焼却をやめ、二酸化炭素排出を減らすことが、岡山市、岡山市民に求められています。

岡山市がやるべきこと

岡山市は、白色トレイと透明トレイ、ペットボトルを収集し、リサイクルしていますが、その他のプラスチックは、資源化コストが高いという理由で、焼却処理をしています。ごみ有料化収入を資源化経費に充てて、プラスチックを「可燃ごみ」から「資源化物」に変更し、二酸化炭素削減を行うべきです。

市民がやるべきこと

「ごみ分別は面倒」「お金払っているのだからいいでしょ」の意識を変え、ごみを減らし、海にごみを捨てないことが、瀬戸内海を守り、地球を守り、命を守ることに繋がることを、理解していただきたいと思います。

参加自由

講演会 暮らしに身近な市立図書館の活躍
～瀬戸内市民図書館のこれまでとこれから～
講師：嶋田学さん(瀬戸内市民図書館長)
と き：8月27日(日)10時から
ところ：岡山市立東公民館(中区高屋344-1)
主催：地区図書館研究会 後援：岡山市教育委員会

下市このみ事務所からのお知らせ

▼7/28(金) 映画上映会
14:00～ 下市このみ事務所
▼8/30(水)～9/15(金) 8月定例市議会

労働相談なんでもライン / TEL&FAX 086-270-5350 / 相談無料・秘密厳守